

議会だより

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒 894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



白浜海岸

勝田りあきさん(27)

高校を卒業すると、神奈川県にいった。箱根の山の上でゴルフ場に勤め、寮生活をしながらキャディをした。

このゴルフ場には、政治家などの名の知れた会員もいて、いい職場環境であったという。

電車で2時間ほどかかったが、休日には東京にもよく通った。

三年余り箱根で生活したあと、福岡に住みたかったので、転居して違う仕事をした。

古仁屋の小・中・高時代はバレーボールに打ち込んでいて、体には自信があったが、1年ほど前に故郷に帰って、いまは伊東組で事務をしている。

自宅の近くに、祖父母が住んでいるので、二人に会いに行くのをたのしみに行っている、という。

こんなことを決めました!

第1回定例会

3月3日~18日

第1回(3月)定例会では、当初予算議案11件、補正予算議案12件、契約議案4件、条例議案6件、同意議案1件、その他4件の計38件の議案を審議し、それぞれ可決しました。

令和2年度各会計予算議案11件については、議長を除く9名で構成する予算審査特別委員会(委員長 向野 忍、副委員長 池田 啓一)を設置し審査を行った結果、原案のとおり可決し、最終日に委員長から報告がなされました。主な議案の要旨は次のとおりです。

一般会計当初予算

●令和2年度一般会計歳入歳出予算総額は、88億357万5千円で、前年度に対し5億4731万7千円、5.9%の減です。

歳入は、自主財源が13億8100万円で、前年度に対し7082万4千円、5.4%の増です。主な要因は、古仁屋高校寮使用料やふるさと応援寄付金等の増によるものです。

歳出は、義務的経費が38億4478万3千円で前年度に対し2億7196万5千円、7.6%の増です。主な要因は、会計年度任用職員人件費や障害福祉補助費の増によるものです。

契約

●令和元年度瀬戸内町(加計呂麻島)携帯電話等エリア整

備事業委託変更契約について

本事業は、西日本電信電話(株)鹿兒島支店と9億3744万円で仮契約し令和元年9月13日、議案第92号で本会議において議決され、工事を進めています。主な変更内容は、消費税法の一部を改正する等の法律、地方税法および地方交付税法の一部を改正する法律によるものです。変更後の委託金額は、1736万円増の9億5480万円となり、本契約議案を可決しました。

●平成30年度30災第3号花天漁港災害復旧工事請負変更契約について

本事業は、(株)里山興業と6828万9千円で仮契約し平成31年3月5日、議案第23号で本会議において議決され、工事を進めています。主な変更内容は、水中の梁の溶接カ所53カ所の増となり変更後の請負金額は1387万円増の

8215万9千円となります。

監査委員の選任

●令和2年3月11日付けで任期満了となる現委員の「宮原省吾」氏を引き続き委員として選任することに同意しました。

持続可能なまちづくり調査特別委員会意見

●「フェリーかけるま」欠航対策については、国(運輸局、保安庁)、県、町(船長等含む)、専門家等と運航基準の見直しや船の大改修など、就航率を上げ欠航しない対策を協議されたい。

船舶事業運営については、第3セクター方式や民間委託等も含めあらゆる方策を検討されたい。

以上を当委員会の意見として、町当局に申し入れました。

予算審査特別委員会各委員から

全庁的に「声を出してのあいさつ運動」を展開し、待遇に対する職員の意識改革を図られたい。

役場コミュニティ職員については、役割を明確にし、常に「報・連・相」の体制を整えられたい。

出産祝金の第1子以降、全ての子供に対し、一律五万円の商品券支給というのは、少子化対策に逆行するものであり他の町村並みの見直しをされたい。

鳥獣被害対策の侵入防止柵は、希望者に行きわたるよう鋭意努力されたい。

奄美せとうち地域公社については、組織強化を図り農政懇談会等を開催し、事業運営内容の説明と協力依頼等を行い事業の充実・拡大に努められたい。

加計呂麻島展示・体験交流館の運営にあたっては、町民・観光客の利便性及び費用対効果の向上に努められたい。

古仁屋～徳之島間には、生活航路として民間業者で運営されているが、観光船就航による経済効果の調査を奄美群島広域事務組合に提案されたい。

古仁屋小学校トイレ新築工事については、内装設計に充分考慮されたい。

加計呂麻地域の医療・介護施設等との更なる連携強化を図り、与路・請・加計呂麻島の医療・介護・福祉サービスの格差是正に努められたい。

せとなみ、フェリーかけろまの欠航対策については、島民の声を十分に聞き取り、反映されたい。

との意見がありました。

一般質問

安
和弘
議員



カケロマの再生

瀬戸内町が誕生して、60年以上が過ぎた。今回の質問は、合併から現在まで人口・産業・人々の暮らしなどがどう推移してきたか。その動態を見ながら現在の瀬戸内町に生かせるものが見い出せないものか・・・

その思いからの質問である。

安 町村合併以来（昭和31年）人口の減少に歯止めがかからない。特に、請・与路を含むカケロマの現状を思うとき心が痛む。「限界集落」という言葉を聞いてもう久しいが、いよいよ現実問題となり、目の前に迫っている集落もある。

「カケロマ再生」を願っているのは、私だけではないと思うが、この現実をとらえて町としてどう取り組んでいくのか。その思いを伺いたい。

町長 カケロマ島を含む本町の過疎地域で暮らしている町民の皆様が、そ

れぞれの地域で安全に安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいく事が重要だと考えている。昨年6月の町長選挙の際、私自身が皆様にお示した「人が輝く、夢と希望に満ちた魅力あるシマ」を基本理念とした「せとうち創生マニフェスト」の政策を町民や議会のご理解のもと着実に取り組んでいく事が、カケロマ島を含む過疎地域の再生につながるものだと考えている。

安 町が取り組もうとしている地域公社にUターン者活用はできないものか。ポンカン・タンカー・パッション・マンゴ

ー・さとうきび・黒糖・キビ酢などのふるさと納税の返礼品に、シルバー人材の方々と関わっても

らう。製品化するまでどれくらいの時間、どれくらいの生産高、売り上げが見込めるのか。夫婦と子ども2人の1家4人として、何家族がまかなえるのか。試算する価値はあると思うのだが・・・。合併当時の4町村の人口と現在の人口を伺いたい。

町長 合併当時の人口については、昭和30年10月時点で、旧古仁屋地区1万1千910人、旧西方地区3千778人、旧鎮西地区6千407人、旧実久地区4千276人、合計2万6千371人。

現在の人口については、平成30年10月時点で、旧古仁屋地区7千40人、旧西方地区408人、旧鎮西地区935人、旧実久地区465



サトウキビの収穫作業

人、合計8千848人である。

産業の推移

安 合併当時のさとうきびの生産高、昭和40年・50年の生産高と現在の生産高について伺いたい。

町長 合併当時は生産量が約1万t、昭和40年については、栽

培戸数2千626戸、2万110t、昭和50年は、栽培戸数343戸、

4千38t、現在においては、栽培戸数35戸・生産量520tとなっている。

安 昭和40年・50年の大島紬業者と紬従事者数は？

町長 昭和40年業者数50、従事者数926人、昭和50年業者数87、従事者数1千847人となっている。現在はゼロとなっている。

安 昭和40年・50年の建設業者数と現在の業者数、また当時の公共工事の発注額と平成30年度の発注額を伺いたい。

町長 昭和40年・50年の

請負金額については、資料が残っていない。

平成3年度は、業者数49社で請負金額は、約30億6千万円。平成30年度は、業者数29社で請負金額は約11億8千万円となっている。

安 最後に「カケロマなくして瀬戸内町の将来はない」歴代の首長の言葉である。重い言葉である。この古仁屋市街地に暮らす人々のどれ程多くの人がカケロマにルーツを持っていることか・・・

その人々の胸の奥にはカケロマのことがいつもしっかりと刻み込まれていることだろう。昭和55年には、カケロマの区長が結集して分村騒ぎがあった。それ程カケロマにとって切実な問題だった。

た。

そういうカケロマの実情を我々は「対岸のできごと」と見過ごすことはできない。

町長が1期目に公約された「カケロマを日本一のさとうきびの島」この

具体策を早く打ち出してほしい。

「町田酒造」という力強いパートナーがいるのだから。

子どもを連れだしたウイーン者夫婦の姿を早く見たものである。

渡島 芳臣 議員



新型肺炎

渡島 中国で発生した新型コロナウイルスは全世界

界へ広がりを見せていて日本でも増加の一途をたどっている。本町でも何時、感染者が発生してもおかしくない状況である。このウイルスの発生源、どの様に感染して行くのか、初期症状、感染者を増やさない最善の方法、今後の対策を伺いたい。

町長 中国湖北省武漢市で発生したウイルス性風

邪の一種で、飛沫感染と接触感染により移ると言われている。

症状は発熱や喉の痛み、咳が長引き、強い倦怠感が特徴である。

予防対策として、石鹼やアルコール消毒液などによるこまめな手洗いのほか、マスク着用などの咳エチケットを行う事、持病のある方、ご高齢の方はより一層注意する事が大切である。

感染が疑われる場合は名瀬保健所内の帰国者・接触者相談センターへ相談し、診療が必要な場合は、感染症指定医療機関で診療する様になっている。今後も関係機関と連携を図り、正しい情報把握と注意喚起、感染予防対策に努めていく。

観光振興

渡島 クロマグロ生産日本一と言われながら、市場には余り出回っていない様に感じる。観光客や町民が手軽に食べられる様

町長 町はマグロ消費

な対策を考えなければ、意味が無いと思う。観光客や町民が何時でも手頃の値段で食べられて、購入し易い値段になる様に助成等出来ないものか伺いたい。

促進事業補助金を漁協に交付している。商工会に加入している6事業所でマグロが食べられる様にキ

ロ当たり千円の補助をして

クロマグロのモニュメント



渡島 最近の観光客は、冬場でも海水浴や海のレジャーを楽しんでいる。

冬場の観光客増に向けた取組みとして冬場に使用出来る温水設備は出来な

いか、本土の海水浴場では設置されているようである。

町長 この整備計画は出来な

いものかお尋ねする。施設整備の経費、メンテナンスとその費用が多額になる事が予想される。考慮すると厳しいものがある。

環境整備

渡島 清水運動公園内では最近ひんぱんにグラウ

ンドゴルフ大会や少年野球、サッカー等の練習を行っているが、休憩施設が無い為、急な雨や晴天時にはさえぎるものが無く、太陽の直射日光を浴びて大変困っている。この整備計画は出来な

いか伺いたい。

町長 陸上競技場や体育館等を含めた改修計画により、順次進めていく予定である。

渡島 清水運動公園のトイレは旧式で多くのお年寄りには膝を曲げる事が困難で使用できないようである。この洋式への改修計画を伺いたい。

町長 基本構想により他の整備と併せて、改修する予定になっている。

中村 義隆 議員



地域活性化

中村 地域おこし協力隊の、それぞれの活動状況や、目標等について伺いたい。

町長 現在、地域おこし協力隊は4名配置している。加計呂麻1名、西方1名、古仁屋高校コー

ディネーターとして2名である。

活動状況としては、農業支援や集落活動を通して地域活性化につながる活動を行っている。

また、古仁屋高校コーディネーターの活動は、魅力ある学校となるような支援や、留学生の受け入れ先となる寮の運営サポート等を行っている。

目標としては、地域と古仁屋高校の活性化である。

課題としては、地域おこし協力隊の活動内容が住民に浸透していない部分も見受けられるので、広報紙等を通じて活動内容をお知らせしていきたいと考えている。

マイナンバーカード

中村 本町の普及率と役場職員の普及率について伺いたい。

町長 マイナンバーカードの本町の普及率については、令和2年2月9日現在で16%となっている。

また、役場職員の普及率については、令和元年12月末現在で34%となっている

世界自然遺産登録

中村 各小中学校の授業等で、世界自然遺産候補

地への野外学習等の実施や、小学校の修学旅行に屋久島を検討できないか。

教育長 現在、総合的な学習の時間を中心に「世界自然遺産」についての学習を行っている学校もあるが、野外学習は行っていない。

また、町内の学校において屋久島への修学旅行を行った実績もない。

野外学習や修学旅行の日程、内容等の詳細については学校の実態に応じて検討し各校で決定することになっている。

現在のところ各校では、歴史や文化にふれたり、公共交通機関や公共施設を利用したりするなど、奄美大島では体験できない内容を中心に設定している。

具体的には、鹿児島市の歴史、文化ゾーンや知覧特攻平和祈念館の見学、市街地での自主研修等になる。

危機的言語の方言

中村 方言について、本町の取り組みや事例発表など伺いたい。

教育長 本町での方言の継承活動への取り組みについては、公民館事業として今年で15回目を迎える「子ども島口・伝統芸能大会」がある。

また、過去（平成25



子ども島口・伝統芸能大会（清水体育館）

年)には、シマグチを学ぶテキストとして「瀬戸内のシマグチ」(冊子とDVD)を作成し、町内すべての学校へ配布して活用しているところである。

神 藤光議員



「町民との地域経済活性化」の取り組み

神 各種団体を横断した、金融機関も参加した民間との地域経済会議と称した組織も必要と思うが、町長の所見を伺いた

伺いたい。
町長 国の職員の招聘については、不定期ではあるが各省庁との人事交流について照会があり、有効な人事交流については積極的に要望して参りたいと考えている。

町長 各種団体や金融機関等の意見を伺ってみたい。
町長 各種団体や金融機関等の意見を伺ってみたい。

国・県との関係

神 私は、昨年の12月の定例議会において、国の職員の招聘について質問した。

本町の恵まれた環境で持続的発展するには、国策的長期展望にそった政策が必要と思う。国の職員の招聘については、如何お考えか再度

行政組織「圏域」

神 政府は人口減少が深刻化する2040を視野にいたれた複数の市町村で構成する行政組織「圏域」を新たな行政単位に位置づける議論を本格化させている。

圏域行政組織が法制化された場合、本町が想定される枠組みやメリット、デメリットについて伺いたい。

町長 本町が想定される枠組みは、奄美市を中心とした奄美大島5市町村等が想定されると考えられるが、その場合のメリットとしては、圏域のスケールメリットを活かした観光PR等が考えられる。また、デメリットとしては、圏域を行政単位とすることは実質的な市町村合併と同様、圏域内の公共施設の統廃合によりあらゆる機能・施設が奄美市に集中し本町の過疎化の進行が危惧されることである。

神 大島本島5市町村で取り組んでいる「圏域」について伺いたい。

町長 大島本島5市町村は奄美大島総合戦略推進本部を設立し、奄美大島における人口減少などの

課題解決に向けて、地方創生に関する施策を域的に連携して、推進している。
具体的なものとして、これまで「奄美大島における大学設置等可能調査」や「奄美大島DMO(組織強化)事業」と連携して実施している。

徳之島と本町を繋ぐ観光航路の開設

神 入込客の約70%が空港を利用してきているデータがある。奄美空港と徳之島空港をつなぐ観光ルートを設定すると請島・与路島・加計呂麻島はその観光ルートの中に位置する。

今日まで奄美の奥座敷と紹介された3島の観光、また大島本島南部地



池田 啓一 議員

区の振興にとつても今がチャンスと思う。

町長 現在徳之島と本町を結ぶ航路は、観光船としての役割も担っており、今後の奄美全体の観光振興に欠かせない航路であり、まずは当該航路を活用して観光振興につなげていくことが重要であると考えている。



上空からの加計呂麻島

防疫体制

池田 新型コロナウイルスによる感染症への態勢は、整えているのか、伺いたい。

町長 現在のところ、新

型コロナウイルスの感染が疑われる目安として、風邪の症状や37・5度以上の発熱が4日以上続いている。強いだるさや息苦しさがあある等の症状のある方は、名瀬保健所に設置された「帰国者・接触者相談センター」に相談していただくようお願いしており、必要な場合は、感染症指定医療機関（県立大島病院）で診療することとなっている。

なお、高齢者や糖尿病・呼吸器疾患等の基礎疾患をお持ちの方は重症化のリスクがあるため、前記状態が2日程度続く場合は同センターに相談していただくようお願いしている。

現時点では、町内医療機関で診療できないが、新型コロナウイルス感染症以外の方が多い状況で

あり、インフルエンザ等の心配があるときには、通常と同様に、かかりつけ医等に相談していただくようお願いしている。

池田 これまでにも、感染症のパンデミック（世界的大流行）は何度も発生し、その度に多くの人命が失われてきた。これからの為にも、国や県の感染症対策を軸に、町民に一番身近な自治体としてのいろいろな事態を想定し、より具体的な対策を立て、町民と共有できる体制を構築し



請島・与路島へ出港する「せとなみ」

船舶交通

池田 せとなみとフェリーかけろまの運航について、今後の計画を伺いたい。

てほしい。

町長 現在のところ、「せとなみ」・「フェリーかけろま」の運航については、大きな変更点などはない。運航の変更等については、要望等の内容については、要望等の内容によって県・国に要望等していきたいと思っ

てい

町長 仮称「加計呂麻島ターミナルビル建設検討委員会」を昨年より設置し、課長補佐以下を中心とした16名のメンバーで構成し、自由な発想を忌憚なく発言し、整備に向けた検討委員会を7回開催したと聞いている。

池田 多くの住民・利用客は、現行の運航に納得していない。困っている。安心・安全はもちろんだが、いろいろな施策を講じ、船員・行政も含め、皆が納得できる安定的な運航体制にするべきだと思う。

コンセプトを加計呂麻島・請島・与路島の島民が必要とする利便性を考慮し、観光客のニーズにこたえるための総合施設の建設を目的として、2つの案が最終報告されたところである。

情報通信の整備

世界自然遺産登録が決定すると、観光客の増加が見込まれており、加計呂麻島の観光拠点としての機能もふまえ、更なる調査及び検討が必要であることから、引き続き実現に向け努力していく。

池田 加計呂麻島への海底光ファイバーケーブルの整備状況と供用開始の時期を伺いたい。

今後の計画としては、「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録が本年夏ごろに世界遺産委員会で審議され登録の可否の決定がなされる。

町長 「携帯電話等エリア整備事業」による加計呂麻島への海底光ファイバーケーブルの整備状況は、進捗率として35%程度となっている。

町長 「携帯電話等エリア整備事業」による加計呂麻島への海底光ファイバーケーブルの整備状況は、進捗率として35%程度となっている。

農業の振興

池田 加工施設「奄美・せとうち地域公社」の内容と現状、今後の計画を伺いたい。

酢熟成貯蔵施設・きび酢製造施設を計画しており、現在、瀬相地区の大池間原、小池間原の用地交渉を進めているところである。

町長 奄美・せとうち地域公社の加工施設の内容としては、製糖工場・原

は、土地取得ができていない土地名義人及び相続関係者等の同意を得て順次施設整備を進めていきたいと考えている。

澤 佳男 議員

電話予約を受けての運行か？

澤 廃止路線代替バスについて伺いたい。

前回、答弁していただいた数字を再確認したい。



加計呂麻バスのデマン

ド運行、不定期運行を
実施している路線で、平成
30年4月から平成31年3
月までの1年間に、利用
客から「きてほしい」と、
事務所に、直接電話
予約を受けたことで運行
した便数は、それぞれの
路線で何便あるのか。

町長 実久線147便、
阿多地線57便、徳浜線63
便、押角線27便の、合計
294便とのことであ
る。

澤 名瀬のしまバスが、
笠利町のある路線でデマ
ンド運行の実証試験をや
ったそうだが、結果は、
1年間に3回の電話予約
があったのみで、結局デ
マンド運行の計画を取り
やめて、いまま定期的に
運行しているということ

である。

「電話予約すれば運行し
ます」と、バス会社はい
うが、実際には、利用客
から自分のために走って
きてくれとはいいいにく
い。

特にお年寄りになれば
余計にそうなる。

「事務所に電話しても、
電話に出てこない」とい
う話も聞く。

**公共交通に
おける二重苦**

澤 町は、加計呂麻バス

の運行経費の圧縮・削減
のためにデマンド運行、
不定期運行を実施してい
るといふが、燃料費にし

ても給与にしても、経費
の圧縮・削減の効果は出
ていない。

路線バスを利用する加

計呂麻島の人々の、バス

の便が減少する不便さ
と、バスがくるのかこな
いのかわからないとい
う、日々の生活のなかに
不安を与えている現状を
考えると、加計呂麻島に

住む人々にとっては、海
上では「フェリーかけろ
ま」の欠航問題に苦し

み、陸上では路線バスの
不定期運行、デマンド運
行に苦しむという、いま

や、二つの公共交通機関
から二重苦を強いられて
いる、といってもいい状
況にある。

町として、このような

現状をどういふふうにか
開いていく考えなのか。
町長の見解を伺いたい。

町長 廃止路線代替バス

の運行委託事業に関して
は、運行経費の圧縮・
削減のほか、どのよ

うな形態で運行

したほうが地域
の実情にフィッ
トし、望ましい
のか等を「地域
公共交通会議」
の中でも、問題
提起していき

た。

フェリーの欠
航時の旅客対策
については、「対
策協議会」の
中で協議中であ
る。

**不定期・デマンド
運行を原因とする
輸送人員の激減**

澤 ここに加計呂麻バス

の年度別の輸送人員の資
料がある。

数字をあげてみると、
26年度4万2千300



棧橋で待機する路線バス（生間港）

人、27年度4万9000人、

28年度3万8千600
人というふうには毎年輸
送人員が減少している。

大体1千400人から
2千300人ほど、1年
ごとに減少している。

それが平成30年度にな
ると、3千400人減少
し、さらに元年度には

3千600人減少してい

る。

これは平成30年3月から、加計呂麻バスが不定期運行を実施し、デマンド運行の路線を追加した結果であり、平成30年度と令和元年度は、輸送人員が激減している。

この輸送人員の減少幅が大きくなった原因は、

不定期運行、デマンド運行の実施によって、乗りたくてもバスに乗れなかった千数百人の人たちの数字が上乘せされた、というところにある。

フランスのパリまで走る距離と同じだという。

この1万キをバスが運行しなかったおかげで、一日に600円余り、節約できたというのである。

こんな理不尽な不定期運行、デマンド運行を、いつまで続けるのか。

商工観光課長

現在のところ、やめるとか続けるとか、そういう話にはなっていない。

経費の圧縮・削減の效果なし

澤 バスは、1年間に9千700キロ余り、約1万キ、走らなければならない。この距離は、日本から

澤 町がはつきりしない

で、決断しないで、時間だけが伸びてゆく。

その間も毎日、加計呂麻島の人たちは不便な思いをし、不安な思いにか

わたり、早く手をつけるべきだと思う。

柳谷 昌臣 議員



町政全般

柳谷 本町の会計年度任用職員の待遇について伺いたい。

る給料表をベースに職務の内容や責任の要素並びに職務遂行上必要となる知識、技術及び職務経験等の要素を考慮し、設定しており、本給においては、全般的に増額となっている。

期末手当については、これまでは一部の専門職のみ支給していたが、全職種に支給し、支給率については、令和4年度には全職種、職員と同率の2・6月となっている。さらに、通勤手当についても職員に準じて支給する。

町長 令和2年4月施行の会計年度任用職員制度による給与については、類似する職務に従事する常勤職員に適用され

また、休暇については、国の非常勤と同様とし、新たに結婚（有給）や子の看護（無給）等の休暇を付与する。

柳谷 先日、行われた若手職員の研修の成果と今後の職員研修の実施について伺いたい。

町長 令和元年12月20日に行った若手研修「これからのまちづくり提案研修会」は、新規採用職員の自主研修（年20回程度）が始まって4年目を迎え、50名を超える若手職員の資質向上が図られてきつつある中で、職務を超えて今後のまちづくりについて具体的に考える機会を研修会として作り、町政立案能力の向上を図る目的で開催した。成果としては、全8班（37名）がそれぞれ事前に勉強会等を実施したテーマをプレゼンしたが、うち2班については、瀬戸内町職員提案規定に基づき提案書を提出



漁協直売鮮魚店「海力」

しており、今後、提案内容を実施につなげ行政効率の向上に役立った場合は、規定に基づく表彰等を行い、人事評価へ反映させることでさらに職員のモチベーション向上につなげていきたいと考えて

ている。
今後の職員研修については、今回が若手（採用10年以内）を対象としたが、次回は中堅を対象とした研修を開催し、組織全体の活性化を図っていく。

観光振興

柳谷 本町の観光拠点は海の駅だと思うが、海の駅の活性化について伺いたい。

町長 現在、奄美せとうち観光協会へ管理業務を委託しており将来的には、指定管理者制度を活用して民間の意見を取り入れて活性化策につなげたいと考えている。

また、今年度、外壁及び屋根の塗り替えに併せて、瀬戸内漁協等の協力を得て、マグロ解体ショーなどのリニューアルフェアを開催する予定としている。

今後も海の駅活性化のため定期的にこのようなイベント開催に向けて、検討したいと思っている。

元井 直志 議員



瀬戸内町の 特産品開発

元井 現在以上に特産品の開発をしていかなければならないがどうか。

町長 特産品については、現在多種にわたって生産されている。

人気商品は、従来から

の製品が当てはまるが、これから必要とされるのは、スタンダードなもの、は勿論として、インパクトのある製品がより求められるのではないかとと思う。今後、農業者、水産業者、加工業者、地域公社、関係各課と横の連絡を密にし、新商品の開発につなげていければと思っています。

農林課としては、現在、重点振興品目や推進品目として位置付けている農産物及び畜産物の生産拡大と農家所得の向上に一層努力して参りたい。

また、地元の農畜産物を有効活用し、付加価値の高い特産品づくりを展開する6次産業化の推進

においても、関係機関と連携して生産者の支援に取り組んで参りたいと考えている。

水産物については、瀬戸内漁協においてクロマグロのチャンジャとロウニンアジのジャーキー、ほか冷凍加工食品を販売中だが、女性部直販店を中心に新商品開発に向けて日々研究を重ねているところである。

瀬戸内町の 観光資源の整備

元井 クルーズ船の誘致が頓挫したが、これからの観光資源の開発をどう考えていくか。

町長 本町の魅力は、過去のアンケート等の結果をみても、本町の「大自

然」そのものであると言える。そこに関係して観光・食・文化・民俗・歴史・イベント等諸々が成り立っていると思う。

より多くの人に本町を知ってもらおうPRの充実により、実際に足を運んでもらうようアピール・宣伝することが一番大事なことでないかと思っている。

下水道の整備

元井 排水処理がうまくできていない現在、海の汚染、河川の汚染の問題をどうとらえているか。

町長 本町の排水処理については循環型社会形成推進地域計画を策定し、合併浄化槽の整備促進を図り公共用水域の浄化に



阿木名地区農業集落排水処理施設

努めているところで、本町の普及率は、平成30年末現在40・3%で毎年微増の状況にある。

海、川の汚染については、人口の密集度、合併浄化槽の普及状況が影響し地域によって汚染の度合いが異なっている状況である。

それぞれの地域の状況を把握し、地域の実情にあった排水処理対策を講じる必要があるので、令和2年度において生活排

水処理基本計画を策定し、それぞれの地域ごとに最善の排水処理方法を検討し、令和3年度以降、排水処理事業の実施に向けての作業を進めて参りたい。

古仁屋高校の クーラー

元井 小中学校には公費でクーラーの整備がなされてよい学習環境であるが、高校はまだできていないが、この対策はあるのか。

町長 古仁屋高校生は、夏場の暑い中エアコンの無い環境でも勉強に励んでいるが、昨今の猛暑は厳しく生徒の健康を考慮するとエアコンの設置は喫緊の課題であると考え

ている。

そこで、古仁屋高校としては令和2年に創立90周年を迎えるが、その記念事業として各教室にエアコンを設置したいと考えて、募金活動を開始しているところである。

起業の支援

元井 これからの町の活性化にはなくてはならない企業支援をもっと利用しやすくなるようにできないか。

町長 平成28年度以降、企業立地協定に基づく企業として3社と、飲食店を開業した1社に支援をしてきたところである。「企業支援」のあり方は、ケースバイケースで行う必要があり、個々の

案件に丁寧に向き合うことが重要だと考えている。今後においても関係機

関と連携しながら支援して参りたいと考えている。優先的に予算編成をした。

計呂麻島における医療・介護・福祉政策の現状と課題について伺いたい。

向野 忍 議員



画」に掲げた施策が、令和2年度予算にどのよう

に組み込まれているか。

町長 拡大・多様化する財政需要に適切かつ柔軟に対応するため、限られた財源の中で節約すべ

「新造船整備」については、令和5年度の事業着手を目指して、令和2年度から調査・協議等に入りたい。その中で、利用される住民の意見等を踏まえた中で「事業費・船体・航路・運賃等」の考えられる諸問題に取り組み「調査・協議」していく。

令和2年度予算編成

向野 2019年度から2028年度までの10年間の本町のあるべき姿、目指すべき方向性を示した「第5次長期振興計

画」の基本理念である「人が輝く夢と希望に満ちた魅力あるシマ」を



いっちゃむん市場（瀬相）

向野 与路島・請島・加

与路島・請島・加計呂麻島の医療・介護・福祉政策

向野 加計呂麻島の介護施設の運営費や介護報酬等に対する助成について伺いたい。

町長 巡回診療や各診療所での診療、小規模多機能事業所による介護サービス、海上移送サービスを伴う通所・訪問介護サービスのほか、転倒予防教室や「島の保健室」と連携した相談支援事業などを実施している。課題としては、医療・介護・福祉、それぞれの分野における人材を含めた資源の確保や天候等に左右されることでの計画的な実施が困難な状況等があげられる。

与路・請・加計呂麻 シマ構想

町長 介護報酬について 生活支援事業の報酬単価 うがどうか。

は、昨年10月の消費税増税に合わせて、報酬単価 についても見直し、増額が増額となった。地域包

括支援センターの運営費 **向野** 離島がゆえの介護

や生活支援体制整備事業 サービス等の格差につい

委託料のほか、市町村が て与路・請・加計呂麻シ

独自で実施する地域支援 マ構想の中で目標を持つ

事業における介護予防・ て解決していくべきと思

ら一体となつて与路島・

町長 加計呂麻地区施設 の協議体とも連携しなが

請島・加計呂麻島におけ

る不公平感の解消に向け

て取り組んでいきたいと

考えている。

声

沖 秀市 (68)



古仁屋高校の水産科を出て、外国航路の船員になった。1万トン

級から、最大20万トンのタンカーに乗っていた。

10年余りして故郷に帰り、役場に入った。それから定年退職するまで、船員として『せとなみ』と、『フェリーかけろま』に乗務した。

いまはタクシートの運転手として、現役で働いているが、2年ほど前に心臓手術をして、生きていくことのありがたさを実感するようになった。

役場職員の時代から、マネン崎の環境整備などの奉仕活動を続けていたが、現在は勤務の合間を見れば、エコープ近くの公衆トイレ周辺に花や木を育てて、道行く人々に喜ばれている。

議会や役場職員に対しては、言葉だけではなく、行動力を期待したい。

編集後記

新型コロナウイルスは感染拡大をつづけ、地球規模で世界中に猛威を振るっている。

奄美大島にも感染者が二人出たことで、わたしたちの町の緊張感は一気に高まってきた。

一方その震源地であり、世界中に感染を拡大させた中国では、感染拡大が静まってきて、以前の生活にもどりつつあるという皮肉な現象が起きている。

強制的に私権を制限することの難しい日本では、感染拡大を防ぐためには国民一人ひとりの良識に頼るほかないという現実がある。

このまま感染を収束させることができれば、日本人は世界に誇れる民族になれるかもしれないという、いまはその瀬戸際にある。



コロナ対策への要望書を提出する岡田議長と向野副議長

議会報編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 澤 佳男 |
| 副委員長 | 元井 直志 |
| 委員 | 岡田 弘通 |
| 委員 | 向野 忍 |
| 委員 | 池田 啓一 |
| 委員 | 柳谷 昌臣 |
| 委員 | 克己 |